

# 新幹線『筑豊くらて駅(仮称)』建設計画概要

一般社団法人【非営利団体】筑豊創生 in くらて

## 《建設趣旨》

福岡県の中央に位置する筑豊。江戸時代から石炭の産地として知られ、明治以降、中小規模の炭鉱がひしめくように掘られ最盛期には国内出炭高の50%を担い、日本の近代化を、地の底から支えた。かつての筑豊は石炭をもとにした鉱工業によって栄えていましたが、のちに全ての炭鉱が閉山し、1960年代と比較して人口が半分以上に落ち込んだ自治体もあり、人口減少や少子高齢化の進行に伴う自治体の財政難も顕著です。福岡市（福岡都市圏）や北九州市（北九州都市圏）との交通アクセスが比較的良好である飯塚市や直方市など、ベッドタウンとして人口が増加傾向にあった地域もありましたが、これも頭打ちとなり、再び全ての自治体の人口が減少に転じています。また、2040年問題が報じられ福岡県下で消滅可能性自治体の一番が鞍手町、小竹町が三番と不名誉な順位がつけられ、このままでは、鞍手郡は消滅してしまいます。

石炭産業の消滅後は北九州地区に近い地の利を活かして炭鉱跡地に工業団地を造成し、製造業等の進出を促していますが、1992年（平成4年）にトヨタ自動車九州を誘致した宮若市を除き、依然として鉱工業に代わる主要産業が形成できていません。また筑豊地区は観光圏としても十分な資産を持っているにも拘らず交通アクセスの不十分さで活かし切れていません。新幹線の博多駅と小倉駅の間に位置する鞍手町に新幹線『筑豊くらて駅(仮称)』を建設することにより鞍手から博多・小倉間を15分で行き来できます。また、新幹線駅を中心に鹿児島本線の遠賀駅・教育大前駅、筑豊本線の鞍手駅・小竹駅を路面電車で繋ぐことにより周辺自治体の交通アクセスは格段に飛躍します。人を主役とする都市づくり実現に向けた革新の第一歩として検討すべきです。

- 一. 人が主役となる交通環境の実現に向け、筑豊創生に向けた新幹線『筑豊くらて駅(仮称)』を建設し交通体系の総合的見直しを図ること。
- 二. 福・北・豊トライアングル構想の実現に向けて、交通体系含む抜本的な対応策を確立すること

## 《計画概要》 ※注 請願駅とは・地方自治体・地元住民・新駅周辺企業等の要望により開設

鞍手町は博多駅—小倉駅の真ん中に位置しています。新幹線の駅間距離は運転速度やダイヤ編成の関係から30km程度が望ましいとされていますが、博多—小倉間は55.9kmあり全国で2番目に長いのです。JRは新幹線開業当初から博多・小倉駅間に1駅欲しかったようですが、**請願駅**※注は地元負担で建設しなければならず、現在に至っています。

当法人が計画しています、新幹線『筑豊くらて駅(仮称)』建設計画は2021年までに駅完成の予定です。その為には、土地開発面積約30万坪（土地購入価格は50億円程度）の地権者の同意を得ることが必要不可欠です。何故30万坪の開発かと申しますと、駅周辺に宿泊・商業・観光施設等を誘致し、住宅環境を整え1つの街を形成します。また、駅を建設するには約200億円ほどの費用がかかり、建設費用を捻出するには今までのような自治体任せではなく、民間による開発をと当法人は考えており、30万坪（50億円）の開発により60%の18万坪の土地を販売し（350億円）駅建設費用を捻出する考えです。

まずは、新幹線駅ですが、しかし駅だけではストロー現象で出て行くだけの駅になり乗降客も望めませんし地元の発展にも繋がりません。駅プラス集客のできる観光・宿泊・商業施設の誘致など、また駅にアクセスするための交通手段として、筑豊本線の鞍手駅・小竹駅等と新幹線駅。鹿児島本線の遠賀駅・教育大前駅等と新幹線駅を結ぶため路面電車も計画いたしております。駅・宿泊・商業施設建設、誘致計画5年、観光施設、路面電車建設計画15年、この時点で雇用人口8,000人規模。全体完成20年と長期計画で考えております。